

第48回保健事業推進協議会（事業計画会議） 第18回保健事業推進協議会研修会を開催

2010年8月2、3日 浜名湖ロイヤルホテルにて

保健事業推進協議会では・・・

平成23年度の保健事業についての実施要領のご説明
平成21年度歯科保健指導活動の実施結果からのご報告
HP「歯とお口の健康増進プログラム」のご紹介

研修会：特別講演では・・・

『咀嚼機能の維持は健康寿命を延伸させる』 新潟高齢者の調査結果から

新潟大学大学院医歯学総合研究科
口腔健康科学講座予防歯科学分野
教授 宮崎 秀夫先生



咀嚼と健康に関して、新潟高齢者調査「咬合破壊や咀嚼機能低下が及ぼす全身への影響」の結果についてご講演いただきました。

歯の喪失により、噛めない食品が増えることで栄養障害をきたし、骨密度にも影響を与え、身体機能低下、QOLの低下、健康寿命にまでも影響を及ぼしているという幅広い内容のお話でした。今までは高齢者の口腔と全身に関する健康情報は極めて少なく、今回の調査により明らかになりつつあるという興味深いご講演でした。

正常な咀嚼機能を保持することは、全身の健康指標に大きな影響を与えることが改めて理解でき、一朝一夕では築けないお口の健康は、働き盛りからのセルフケアとプロフェッショナルケアで基礎づくりをすることが重要だと再認識しました。（詳細は2ページへ）

リラクゼーションツアーでは・・・

歴史の通り道 ～奥浜名湖～

ツアーの始まりは、井伊家菩提寺の龍潭寺。
お抹茶をいただき、小堀遠州作の池泉鑑賞式庭園を
文字通り鑑賞し、鍾乳洞竜ヶ岩洞ではマイナスイオン
をたっぷりと浴びて、昼食はうなぎの白焼きに舌鼓！
午後は、奥山方広寺のユーモラスな五百羅漢や、
後藤岩五郎作の昇り龍降り龍との出会いに感動！
暑い一日でしたが、心身ともにリフレッシュできた
奥浜名めぐりでした。



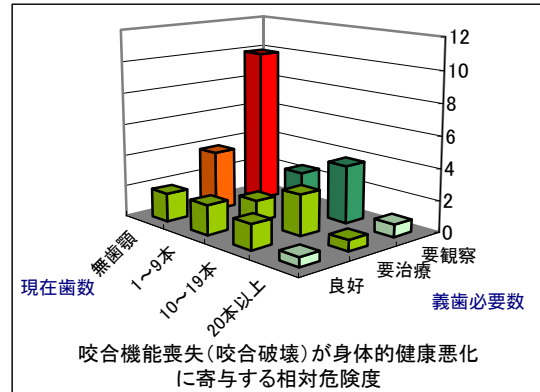
* 資料を一部、抜粋し掲載しております

調査対象者

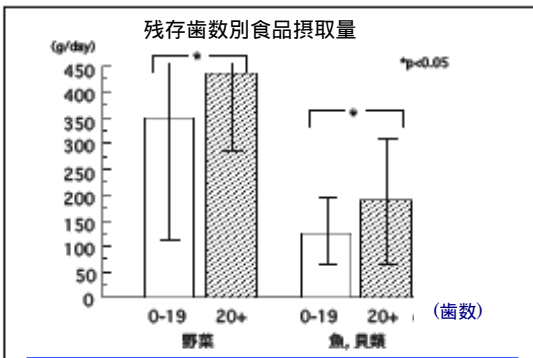
新潟市高齢者の70歳600人、80歳163人、合計763人(男女比1:1)
このうち70歳対象者を1998年から2008年の10年間追跡調査した。

調査項目

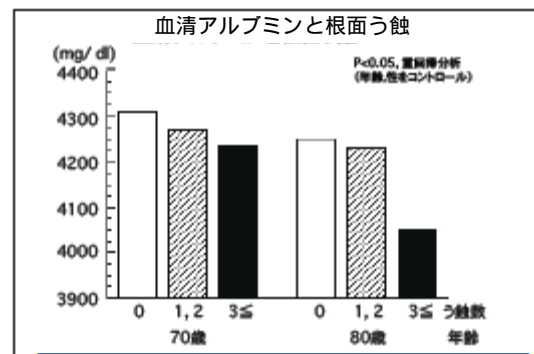
- ・口腔健康関連項目(歯と歯周、粘膜組織、唾液、細菌、口腔気体、パノラマX線検査など)
 - ・社会・環境や日常生活調査
 - ・医学検査(身体測定、視力、血圧、心電図、既往症、服薬、血液生化学検査、尿検査など)
 - ・栄養調査、
 - ・運動生理機能、身体機能の全身健康状態
- 以上の項目を年に一度測定した。



無歯顎で義歯未装着の方ほど身体的健康悪化を及ぼしている。



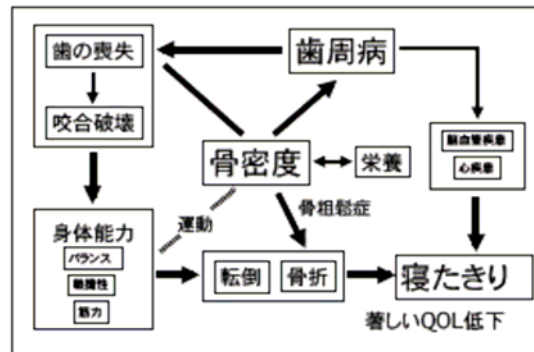
咀嚼機能が低下すると野菜や魚、貝類の食材をさけるようになる
各種ビタミン類の摂取量が低下する。



血清アルブミンとは全身の栄養状態を表す指標
う蝕の本数が少ない方ほど血清アルブミン濃度が高い

骨密度と歯の喪失の関連
Stiffness 69(男), 85(女) 骨量が少ない
喪失歯数 男:11.68±9.93, 女 12.03±9.98
骨量が多いグループ(男:9.88±9.33, 女:9.69±8.06)に対して有意の喪失歯が多い
喪失歯数とStiffnessは有意に関連
*全身の骨代謝が歯の喪失に影響している

残存歯数は骨密度と明らかな関係性がある。残存歯が多いと骨密度が高い。



咬合、咀嚼機能能力破壊は筋力、敏捷性、バランスのいずれにもマイナスに働いており、後期高齢期にかけての体力(運動機能)低下に影響を及ぼしている。